

ということを学んだことが、僕自身の良い経験になりました。

そんな折、デビュー当時バンドを通じて友人だった堀田秀吾さんと旧交を温める機会がありました。久しぶりに会った彼は、明治大学でアメリカ仕込みのフラットな人柄が学生に大人気の名物イケメン教授になっていました。彼が専攻していた言語学・心理学・コミユニケーション学や「会社を立ち上げるなら儲ける事ももちろん必要だけれど、社会貢献の精神が大事だ」との持論に共感。彼の言葉は、これまで僕自身が無暗と思っていた「自分たちの活動が少しでも社会のために役立つなら、大田区発信の何かをしたい」という気持ちを後押ししてくれました。そして、所属していたプロダクションを辞めて、自分で新しく会社を設立。「社会貢献」を柱の1つに掲げて、子どもから大人までが芝居を通して自分を解放し、自信を持って成長できるような会社をとの思いで立ち上げました。

また、僕は特に日本の縦割りの組織が嫌で、社内では上下関係をなくして、みんな平等の立場で仕事をしようという考え方でやっています。だから会社ではみんな「社長」ではなく「一平さん」と呼びますよ。

どんな時も、自分がしつかりしていれば人は必ずついてきますね。年齢や芸歴は関係ないし、肩書きも関係ないけれど、年齢が進めばいなくなるものだと思います。あつたらうまく使う程度のものだと思うし、肩書きはその人が本当に偉くなればいらなと思いますね。それより、その人の価値は周りの人を見れば分かると思うので、今の仲間たちと心を合わせて、良い会社・仲間づくりを話し合っています。

2013年の3月から、恩返しのもりで僕ができること、芝居を通して、大田区発信の社会貢献活動を始めました。教育委員会の支援を受けた、「イジメ」をテーマに取り上げた芝居です。やられる側やる側を演じることにより、相手の思いを知って、お互いの理解を深め合い、イジメが無くなればとの思いから「大田区教育委員会後援 芝居を通じた人づくりワークショップ」の



「社会貢献」として 芝居のワークショップを されています

タイトルで行うことができました。今後も豊島区、多摩の瑞穂町、品川区、目黒区にも輪を広げ「芝居」や「ダンス」を取り入れた、親子でのコミュニケーショントレーニングを行っていきます。この運動をもっともつと広めてイジメをなくし、みんな元気で輝いてもらいたいと考えているんです。

これからの目標は どんなことですか？

シニアの方々から行く先々で、私たちに合うワークショップをやってもいいかなと声をいただいていますので、芝居やダンスを通して生涯学習の

一環としてやりたいなと思っています。僕がそれまでと違う「ひかる一平」としてスタートを切れたのは、芝居の世界では先輩の三田村邦彦さんとの出会いが大きかったし、堀田秀吾さんの再会が今回の会社設立へ踏み出すきっかけの1つでした。こうした人との出会いとつながりが今の自分を支えてくれていると思います。そしてこれから、僕が会社やワークショップを通して、子どもたちが自分の中に今までと違う自分を発見しさらに輝いていけるきっかけ作りをしながら、どこまでも子どもたちに関わり続けていきたいです。小さい時にしっかりと関われば、大人になった時にも自分の力で生きていけると思うからです。すつこく疲れることもありますが、責任のあることをしているとエネルギーが出てくるのを実感できるんです。

49歳！これからも夢に向かい進んでいきたいと思っています。

